

楽しかった満足感が積み重なってきて、－（中略）－その場での面白さが共有され、また繰り返して遊びが続き、同じようなイメージで遊ぶことが楽しくなってくる。

今日が誕生日の A 児が「先生、ケーキを作ろう!」と保育者を誘ってきた。前日までグミの実を集めてジュースを作って遊んでいた B 児がそのグミの実をもって砂場でケーキを作った。友達も集まってきて同じようにケーキを作り始めた。すると C 児が D 児の作っていたケーキの上にどんどんグミを乗せてこぼれ落ちると「きゃー!」と笑う。周りの子も「きゃー!」と笑うので、何度も同じように乗せてはこぼして繰り返し遊んでいた。次の日、砂場でケーキを作っていた A 児が誕生会でみんなとケーキ屋さんがしたいということだったので、クラスみんなで自然物も使って紙粘土でケーキ屋さんをした。クリームをしぼったり紙粘土をカップケーキの型にいれたりして楽しんだ。油粘土のように型抜きをしてクッキーを作っている子もいた。その次の日も同じように好きな遊びでケーキ屋さんごっこを楽しんでいた。次の週に、ケーキ屋さんをしていた子どもが今度はパンを作りたいということで、小麦粉とイーストを使ってパン屋さんごっこをすることにした。パンのようなにおいがすることや膨らむことなども楽しんでいた。

- ・好きなことに繰り返し取り組もうとする（進んで参加する態度）
- ・自分の思いや要求を保育者に伝える（コミュニケーションを行う力）
- ・友達と同じようなイメージで遊ぶ（コミュニケーションを行う力）



受容性

一人一人がやりたいと言ったことが実現されていくことで、自分が大切にされていることを感じ、意欲的に遊んでほしい。

受容性

いろいろな感触を楽しんでほしい。木の実や枝などの自然物を取り入れ、その美しさやおもしろさなどを存分に感じてほしい。

連携性

わかりやすい同じようなイメージで遊ぶおもしろさを感じてほしい。

大勢の友達と簡単なルールで体を動かして遊ぶことが楽しくなっているようだ。

運動会でリレーを見たことや、預かり保育で年長組とリレーを経験したことで、自分たちでもリレーをしたいと声が上がリ、リレーごっこが始まった。初めてでも途中から入ってもルールがわかりやすいように、フープやコーンを使って待つ場所がわかりやすくなるようにすると、何度も変わりあって走っていた。楽しそうな様子にどんどん集まってきて変わりあって走ることを楽しんでいた。始めた頃は一周走るだけでも疲れて途中で座り込んでしまった子もいたが、何度も走るうちにどんどん走れるようになってきて、自分でも速く、長い距離を走れるようになってきていることを喜んでいる子どももいた。何度もぐるぐる走っているのどちらが勝っているのかわかりにくい、自分なりに勝ったり負けたりしていることを感じているようで、何度も走るうちに勝ったり負けたりしながら頑張っていることが面白くなってきた。また、走ることに疲れたり、走ることがあまり得意ではなかったりする子どもが、シートや水筒を持ってきて、近くで座って応援し始めた。

- ・年長児や友達がしている面白そうなことに自分から取り組もうとする（進んで参加する態度）
- ・大勢の友達と遊ぶおもしろさを感じる（コミュニケーションを行う力）
- ・簡単なルールを守って遊ぶ（他者と協力する態度）
- ・自分なりの達成感や満足感を味わう（進んで参加する態度）



受容性

いろいろな参加の仕方を大事にしたい。自分なりに参加してできるようになった満足感を味わってほしい。

連携性

簡単なルールがあるからこそおもしろいことを感じてほしい。

身近な秋の自然に興味が高まり遊びに取り入れている。

こどもの森で、葉っぱを集められるように、ダンボールや熊手を用意して一緒に集めて遊んだ。A 児は、階段にたくさん葉っぱが集まっていることに気づき、保育者に「こっちにいっぱい（葉っぱが）ある!」と知らせる。近くにいた子どももたくさん葉っぱが集まっているところを探して森の中を走り始める。たくさん葉っぱを集めようと B 児は二つの熊手で挟んで葉っぱを集め始める。保育者が B 児の集め方を認めて真似をすると C 児も B 児の真似をして二つの熊手で集める。あっという間に葉っぱがたくさん集まり喜んだ。たくさん葉っぱが集まると、D 児が給食の鍋に見立ててごちそうを作り始める。E 児はダンボール箱に投げ入れようとして葉っぱが舞うのを喜んでいた。保育者が真似をしてより高く葉っぱを舞い上げると葉っぱをとる遊びになる。斜面に登って一列に並び、「せーの」で投げてキャッチする遊びになる。舞い散る葉っぱを掴めて喜んでいた。

- ・自然物を集めたり遊びに取り入れたりする。（進んで参加する態度）
- ・思いついた遊び方を保育者や友達に伝える。（コミュニケーションを行う力）



多様性

自然物は一つとして同じものがない。いろいろあるからこそおもしろいことを感じてほしい。

受容性

同じ自然物でもいろいろな遊び方や触れ方がある。それぞれが思いついた遊び方を大事にし、自分なりに自然物に触れて、音やにおい、感触などを存分に味わってほしい。

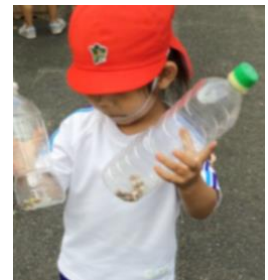


真似をして同じことをしたり、自分なりに考えて変化を加えたりしながら遊びや経験の幅が広がっていく。

ジュース屋さんをしていた場の近くにジュズダマが落ちていることに気づいた数名の子どもたちが、手にいっぱい拾って楽しんでいた。次の日に色々な種類や大きさのペットボトルや箱などを用意すると自分達で選んでそこに入れ始めた。ペットボトルに入れて振ると音が鳴り、とても喜んでいた。その姿を見て、次々と子どもたちが集まってきて同じようにペットボトルに入れて遊び始める姿が見られた。500ml のペットボトルを選んでジュズダマを入れた B 児は、「僕のはゴロゴロ言う!」と嬉しそうに持ってきた。また、C 児は「緑の（ジュズダマ）どこにある?」と言いながら緑色のジュズダマだけを集めることを楽しんでいた。緑色のジュズダマは、茎についたままであることに気づき、「こっちにいっぱいある!」と言う。また、緑色のジュズダマだけを入れたペットボトルを振って「先生!音が違う!」と言う C 児はさらに大きいペットボトルを持ってきて「僕のはゴトゴト言う!」と発見を伝えた。それを見ていた B 児は、これは「シャカシャカやろ。これは、ゴロゴロ。」と、大きさの違うペットボトルをいくつも持ってきて、音の違いを教師に伝えにきた。B 児はさらに違う音を出そうと振りかぶって素早くペットボトルを振り、「先生!シャってなる!」と嬉しそうに言いに来た。もっと違う音を出そうと水を入れて振ったが、音が鳴らなかったので不思議そうな顔をしていた。

- ・自分で感じたことを言葉や態度で伝えようとする（コミュニケーションを行う力）
- ・相手の動きや言葉を見たり聞いたりしようとする（コミュニケーションを行う力）
- ・友達と違うことを考えようとする。

（進んで参加する態度・多面的、総合的に考える力）



受容性

感じたことを自分なりにのびのび表現してほしい

連携性

友達の感じたことや考えた、表現の仕方を聞いて自分なりに感じたり考えたりしてほしい。



そばにいる心地よさを感じ、一緒にいたい友達や気の合う友達として、特定の友達との関係が深まってくる。

給食でラーメンが出たことをきっかけに、ラーメン屋さんごっこが始まった。A 児が毛糸を切って麺を作っていると B 児も同じようにはさみと毛糸を持ってきて麺を作り始める。A 児が「もっと（麺が）いるな!」と言うと B 児も「そやな!」と言い、ほかの友達もどんどん加わってみんなでたくさん麺を作っていた。何日も部屋のままごとコーナーでラーメン屋さんが続いたある日、C 児が弁当箱にラーメンを詰めてベビーカーに乗せ、「ピクニックに行こう!」という。D 児も同じようにベビーカーを取りに行き、C児の後についていった。それを見ていた B 児が慌てて弁当箱にラーメンを詰め、ピクニックシートを持って追いかけてきた。「これ（ピクニックシート）あるで!」と広げるとC児とD児はそこに座って弁当を広げ始めた。



受容性
一緒にいるだけでうれしいと思える関係を大事にしたい。



- ・友達のしていることの真似をする（コミュニケーションを行う力）
- ・自分の思いや要求を伝えようとする（コミュニケーションを行う力）
- ・友達の言葉を聞こうとする（他者と協力する態度）
- ・友達の言葉や行動から相手のしようとしていることをわかる（他者と協力する態度）
- ・友達と同じようなイメージで遊ぶ（コミュニケーションを行う力）

少し難しいと思われるようなことに意欲的に取り組もうとする。

そらぐみ（4歳児）の友達が一輪車に乗れることに憧れていた A 児が、「一輪車にのりたい!」と保育者に伝えてきた。今まで、自分の思いをなかなか伝えられなかった A 児の思いを受け止め、一緒にすることになった。一度も、一輪車に乗ったことがなかった A 児だが、一輪車をもって運ぶことから始め、できるようになると、一輪車にまたがり、自分で手すりに体を引き寄せ、一輪車に座って乗った状態の姿勢を保つという練習を保育者が見守る中で、何度も繰り返し挑戦していた。また、他の友達も A 児の様子を見て、乗ったことのない一輪車に乗ってみようと挑戦しだす子も数人でてきた。保育者が他の一輪車を練習する友達のところに行っても、A 児は自分なりに「次は、横を向いてみる。」と別の動きにも意欲的に挑戦していた。



公平性
“3歳児だから一輪車は難しい。”と決めるのではなく、やりたい思いを大切にしたい。



- ・したことがないことでも意欲的に挑戦してみようとする。（進んで参加する態度）
- ・失敗しても、諦めず自分なりに取り組む。（進んで参加する態度）

自分の感じること、思ったことを表情や言葉、行動など様々な方法で表し、保育者やクラスの友達に伝えようとする。

たまたま黒い折り紙に綿をのせると巻きずしに見えたようで、A 児が保育者に「先生!見て!お寿司!」と言った。それを見て、B 児 C 児も同じように巻きずしを作り始めた。C 児が「これはな、きゅうり巻き。こっちはまぐろやねん。」という B 児は「B ちゃんと一緒やん!」と横に寿司を並べ、中の画用紙の色が一緒であることを保育者と C 児に見せた。A 児も自分が作った巻きずしを持ってきて「私もマグロ好き!」とうれしそうに言った。「もっとふわふわ（綿）ほしい。」と保育者に伝えると C 児は「黄色（の画用紙）ほしい。」と言って材料を増やしてどんどん巻きずしを作って遊んだ。そのあとみんなで集まって好きな遊びの話をしたときには、A 児は巻きずしをつかった話をした。自分の作った巻きずしを見せながら「食べてもいいで!」と言いながら座っている友達に見せてまわり、食べる真似をしてもらうと嬉しそうに笑っていた。



連携性
自分の思いを自分なりの方法で伝えようとしてほしい。

受容性
自分の思いを受け止めて認めてもらえる喜びを感じてほしい。



- ・保育者に自分の思いや要求を伝えようとする（コミュニケーションを行う力）
- ・保育者や友達の言葉を聞こうとする（他者と協力する態度）

同じクラスの友達への親しみをもち、いろいろな友達とかかわることができるようになってくる。

みんなで集まって好きな遊びの話をしたときに、「だるまさんがころんだ」が楽しかったという話がでた。簡単なルールを守って大勢の友達と遊ぶことが楽しくなってきているので、次の日にみんなですることを保育者が提案した。「だるまさんが〇〇」の〇〇の部分でころんだりんだりジャンプしたりなどいろいろな動きをすることを提案すると、鬼になった子どもは、それぞれが自分なりの動きを考えて“どんぐりコロコロ”と手をくるくるしてみたり“けんけん”をしたりし、鬼以外の子どもは友達の動きをみんなで真似することを楽しんでいた。

- ・クラスのみんなでする活動に参加する（進んで参加する態度）
- ・友達のしていることを真似しようとする。（進んで参加する態度）
- ・友達と違うことを考えようとする。

（進んで参加する態度・多面的、総合的に考える）

連携性
いろいろな友達
と関わって遊ぶ
楽しさを味わっ
てほしい。



自分なりに見通しをもって、保育者の手助けなしでできることが増えてきている。

登園してくると、楽しそうに話しながら身支度をしている子どもが増えた。A児は「一緒にしよう!」とB児を誘って身支度を始め、「ちょっと待ってて、着替え袋置いて来るから!」とトイレの前に着替え袋を掛けに行くことをB児に伝えて走って掛けに行き、戻ってくるとまた一緒にタオルを掛けたり帽子を掛けたりして身支度の続きを始めた。保育室に入るとC児が制作をして遊んでおり、A児は「（出席）シール貼ったらAもするから!」とC児に伝えた。C児が「あ、シール忘れてた!」と慌てて出席シールを貼りに行った。シールを貼り終わるとA児とC児は制作をして遊び始めた。

- ・毎日することがわかって自分から行動する（進んで参加する態度）
- ・少し先のことに期待感をもって、できることに取り組もうとする

（未来像を予測して計画を立てる力）

責任性
すぐに遊びたい気持ち
を我慢してするべき
ことを先にする気持ち
を大事にしたい。

責任性
簡単なルールを
守って遊ぶおも
しろさを感じて
ほしい。

責任性
自分のことを自
分でできるよう
になる喜びを感じ
てほしい。

